

東京都新宿区の大学生、

中西久恵さん(24)は三年前、在日外国人などの子供

に勉強の手ほどきをする

「世界の子どもと手をつな

ぐ学生の会(CCS)」の

活動で出会った中学三年の

女子生徒が忘れられない。

高校受験を翌年に控え、

英語のb・動詞と一般動詞

の区別がつかない。九九の

計算もあやしい。小学生の

時に台湾から来日しなが

ら、学校の勉強から離れ去

りにされていた。

「やるしかない」。中西さ

拝啓

こんにちは

日々です



第28話

## 子供に寄り添う

④

んは週二回、一日三時間の  
特訓を始めた。その成果も  
あって、半年後、女子生徒は

高校に合格することができ

た。中西さんは安堵(あん

ど)したが、同時に在日外国

人に対する行政のサポート

の不十分さを実感した。

CCSは現在、東京都内

六カ所で週に一、二回、在

日外国人や国際結婚した夫

婦の子供を対象に学習教

育環境の充実を、日本語

を教えることに力を入

れている。中国やフ

イリピンなど多様な国籍を

有する小中学生が国語や算

数などを習いに訪れる。

中西さんがCCSに入っ

たのは「ちよっとやってみ

ようか」の軽い気持ちだっ

た。だが、そこで見たのは

教育環境の充実を、日本語

を教えることに力を入

れている。中国やフ

## 学生有志、外国人をサポート

がおぼつかなく、いじめに

遭う子、学校になじめず勉

強についていけない子……

。学校の対応は万全と

はいえず、教育に関心がな

い親が、こうした子を影ら

ませていた。

勉強を教えるだけでな

く、学校や親と連携する必

要があると感じたが、サポ

ートするのは経験に乏しい

普通の大学生。メンバーは

疎外感を感じている子が棄

しめる場をつくれないうか

と、興味を持ってもらうイベ

ントを何度も開くなど知恵

を絞った。

こんなことがあった。あ

る中国籍の男子生徒は国籍

を隠し、別の中国人に中国

語で話しかけられても日本

語で答えていた。ところが

イベントで自作の中華料理

が参加者に絶賛されると、

次第に態度が変わり始め

る。自発的に中国語の通訳

を買って出たりして、周囲

を驚かせた。「子供が心を

開き、周囲に寄り込むよう

になるのは大きな喜び」。

そう思った。

活動を始めて三年。現在

は地元の教育委員会から在

日外国人のサポートを頼ま

れるようになった。「大学

卒業後もCCSの活動にか

かわっていきたい。CCS

に来るような子こそ、日本

と外国を結ぶ将来の懸け橋

なのだから」。

在日外国人の子供に勉強を教える  
る学生ボランティアの中西久恵さん  
④ (東京都品川区のキリスト教会)

